ワイヤレスマイクロホンシステム
S5.5 System

取扱説明書

目　次

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保存してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

電源プラグを抜け

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、電源プラグやアンテナ線にはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

医療機器の近くで使用しない

電磁波で医療機器に影響を与えることがあります。
本機の電源を必ず切ってください。

禁　止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

工事は販売店に相談する

アンテナ工事は、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
適切な工事を行わないと、アンテナが倒れて、感電・けがの原因となることがあります。

強　制

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、電源プラグは根元まで差し込んでください。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池の液もれに注意する

半月以上使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
電池から液がもれて、火災・けが・周囲汚損の原因となることがあります。

強　制

電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。
守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- (＋)と(－)に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。

強　制

はじめに

S5.5 Systemは、最先端メーカーとして長年にわたって培ってきた技術で信頼できるワイヤレスマイクロホンシステムをお客様に提供いたします。
このたびはワイヤレスマイクロホンシステム S5.5 Systemをお買い上げいただきまことにありがとうございます。本装置に付属のCD-ROM内の取扱説明書をお読みになる前に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みください。

ワイヤレスマイクロホンシステム S5.5 Systemの概要

本装置は以下の特徴を備えた、800 MHz帯B型に対応するPLLシンセサイザー方式を採用したワイヤレスマイクロホンシステムです。

- トゥルーダイバシティによりデッドポイントが最小。
- チューナーとワイヤレスマイクロホンには、見易い液晶ディスプレイおよび優れた操作性を採用。
- 赤外線通信による効率的な各種システム設定。
- ソフトウェアによるワイヤレスマイクロホン の機能のロック。
- ヘッドホンモニタリングを標準装備。
- XLR(マイクレベルとラインレベルが切り替え可能)および標準フォーンジャックからのオーディオ出力。
- オーディオ処理メニュー。
- USBポート経由による完全に統合されたPCソフトウェアモニタリングを装備。
- チューナーとワイヤレスマイクロホンはともに金属ケースを採用。
- ラックマウントキットが付属。

使用上のご注意

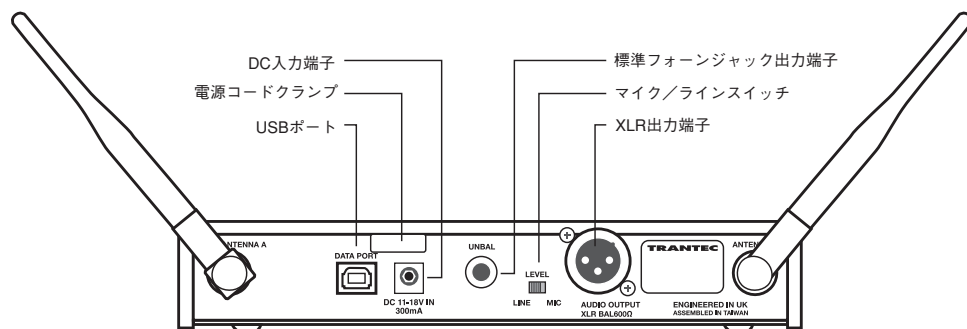
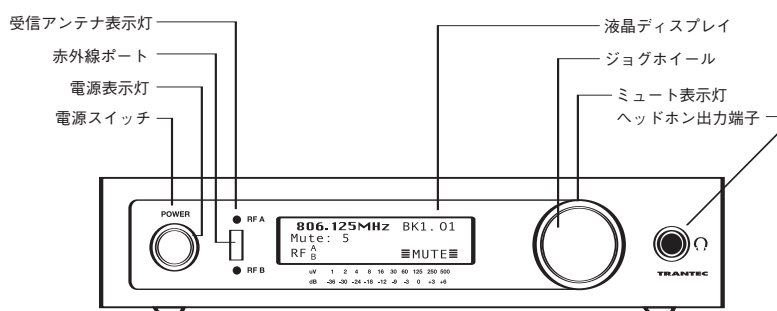
- このワイヤレスマイクロホンは電波法に規定される技術基準適合証明品です。
  機器にその証明番号（証明ラベル）が貼ってあります。傷つけたりはがしたりしないでください。
- 分解や改造は法律で禁じられています。
- 床に落としたり、固い物に当てたりしないでください。故障の原因となります。
- 夏の閉めきった車内のような温度の高い所や、湿度の高い所に置かないでください。故障の原因となります。
- 汗や海水のかかる所では使用しないでください。故障の原因となります。
- 本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。
  ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。
- ワイヤレスマイクロホンを使用している近くで携帯電話を使用しないでください。
  ノイズが入ることがあります。
- 付属の電源コードは、本機専用品です。本機以外の機器には使用しないでください。
- 本機を、蛍光灯、デジタル機器、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して設置してください。

操作の前に

本装置は、見易い液晶ディスプレイや操作性のよい設定機能など、多くの特徴を備えた高品質のワイヤレスマイクロホンシステムです。操作を行う前に、以降のページで説明しておりますシステムのセットアップを行ってください。

チューナーのセットアップ

後面

受信アンテナ表示灯
赤外線ポート
電源表示灯
電源スイッチ
液晶ディスプレイ
ジョグホイール
ミュート表示灯
ヘッドホン出力端子
POWER
RF A
RF B
806.125MHz BK1.01
Mute: 5
RF
MUTE
TRANTEC

前面

1. 上図のように、後面のBNCアンテナコネクタに付属のアンテナ2本を取り付けます。
2. 付属の電源コードクランプを使用して、後面のDC入力端子にAC/DCアダプターを接続します。前面の電源表示灯が赤く点灯します。
3. ミキシングコンソールまたはアンプに、標準フォーンジャック出力端子またはXLR出力端子のいずれかからのオーディオ出力ケーブルを接続してください。

   メモ

   XLRのバランス出力は、マイクレベル、ラインレベルのどちらかに切り替えることができます。受信音声出力は、ヘッドホン出力端子でモニターできます。

   また、ヘッドホン出力はジョグホイールを使用して音量調整することができます。
4. 電源スイッチをONすると、チューナーは自動的に上図のように初期表示になります。(BK1.01)

以上でチューナーのセットアップが完了しました。

チューナーの周波数選択

周波数選択オプション

<u>1. BANK1（グループ1）で選択されているチャンネルを変更する</u>
ジョグホイールを約3秒間押すとMAIN MENUが表示されます。ミュート中の場合はすぐにMAIN MENUが表示されます。

FREQ SELに下線がある状態でジョグホイールを押します。

```
MAIN MENU
FREQ SEL      RX SET
EXIT          TX SET
```

BANKSに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、BANKSに下線が表示されたらジョグホイールを押します。

```
FREQUENCY SELECT
BANKS   SCAN   EXIT
```

ジョグホイールを押してBANK1を選択します。

```
1 2 3 4 5 6
Rotate—Change  Bank
 Press—Select  Bank
```

ジョグホイールを回してチャンネルを変更します。

```
806.125MHz BK1.01
 Rotate-Change
  Press-Select
```

ジョグホイールを押して新しい周波数を選択します。
（周波数表を参照してください。）

```
806.375MHz  BK1.02
 Rotate-Change
  Press-Select
```

ACCEPTに下線がある状態でジョグホイールをもう一度押します。

```
806.375MHz  BK1.02
EDIT        CANCEL
     ACCEPT
```

新しい周波数が登録されます。

```
806.375MHz  BK1.02
Mute: 5
RFAB          ≡MUTE≡
```

2. 選択されているBANKを変更する

ジョグホイールを約3秒間押すとMAIN MENUが表示されます。ミュート中の場合はすぐにMAIN MENUが表示されます。

FREQ SELに下線がある状態でジョグホイールを押します。
次の画面が表示されます。

```
      MAIN MENU
FREQ SEL      RX SET
EXIT          TX SET
```

BANKSに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、BANKSに下線が表示されたらジョグホイールを押します。

```
 FREQUENCY SELECT
BANKS   SCAN   EXIT
```

右のBANK選択画面が表示されます。

```
1 2 3 4 5 6
Rotate—Change  Bank
 Press—Select  Bank
```

新しいBANKに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、ジョグホイールを押して選択します。

```
1 2 3 4 5 6
Rotate—Change  Bank
 Press—Select  Bank
```

選択した周波数が表示されます。表示された周波数を選択する場合はジョグホイールを押し、違う周波数に変更する場合はジョグホイールを回します。

```
806.250MHz BK2.01
  Rotate-Change
   Press-Select
```

ACCEPTに下線がある状態でジョグホイールを再度押します。新しいBANKが登録されます。

```
806.250MHz  BK2.01
EDIT        CANCEL
      ACCEPT
```

3. チューナーの赤外線ポートを使用してワイヤレスマイクロホンへ周波数（グループ）情報を転送する

ジョグホイールを約3秒間押すとMAIN MENUが表示されます。ミュート中の場合はすぐにMAIN MENUが表示されます。

TX SETに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、TX SETに下線が表示されたらジョグホイールを押します。TX SETTINGS画面が表示されます。

FREQUENCYに下線がある状態でジョグホイールを押します。

```
TX SETTINGS
FREQUENCY    LOCK
EXIT
```

ワイヤレスマイクロホンとチューナーの赤外線ポートを15cm以内に近づけ、SENDに下線が表示されたらジョグホイールを押して数秒待ちます。

```
SEND BANK 4 TO TX
align IR Windows
SEND        CANCEL
```

選択したBANKの全ての周波数がワイヤレスマイクロホンに送信され、ワイヤレスマイクロホンとチューナーの周波数が同期します。チューナーの画面はMAIN MENUに戻ります。

その他の設定

チューナーの設定

<u>ミュート／スケルチ設定</u>

本装置は、ワイヤレスマイクロホンがOFFの場合、外部からの雑音を防ぐためにパイロットトーン、ノイズレベルおよび受信レベルによる、高機能な内部ミュート機能を使用しています。

受信レベルによるミュートは**RX SETTINGS MENU**で調整可能です。
ジョグホイールを1秒間押して**MAIN MENU**を表示します。ミュート中でない場合は3秒間押します。

RX SETに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、RX SETに下線が表示されたらジョグホイールを押します。

MAIN MENU
FREQ SEL RX SET
EXIT TX SET

MUTEに下線がある状態でジョグホイールを押します。

ジョグホイールを回して1から10のミュート設定を行います。
RF AとBのスケールは、現在のミュートの設定状態を表示しています。

メモ
ミュートレベルを高く設定すると受信範囲が狭くなり、低く設定すると干渉波が増加します。4～6の間での設定を推奨します。
ジョグホイールを回せばミュートレベルはリアリアルタイムで変化します。

<u>オーディオ処理</u>

ジョグホイールを押して**MAIN MENU**を表示します。
RX SETに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、**RX SET**に下線が表示されたらジョグホイールを押します。
RX SETTINGS画面で、**AUDIO**に下線が表示されるまでジョグホイールを回し、AUDIOに下線が表示されたらジョグホイールを押します。

ここではPHASE REV、LoCUTとHiBOOSTのオプションが利用できます。これらのオプションは、工場出荷時の設定はOFFです。

TX SETTINGS
PHASE REV LoCUT
EXIT HiBOOST

ジョグホイールを回して設定したい項目に下線を表示させ、ジョグホイールを押すことでチェックボックスをON/OFFさせることができます。

PHASE REV：オーディオ出力の極性を反転します。
LoCUT：低域の周波数成分を減らします。
HiBOOST：高域の周波数成分を増やします。

これら3つの機能はリアルタイムで変更することができます。
各機能を設定後、ジョグホイールを回してEXITに下線を表示させてジョグホイールを押すと、メイン画面に戻ります。

TX SETTINGS
PHASE REV LoCUT
EXIT HiBOOST

ヘッドホンボリューム

メイン画面で、ヘッドホンボリューム調整の画面が表示されるまでジョグホイールを回します。
ヘッドホンボリュームのメーターが表示され、ジョグホイールを回すとボリュームを変えることができます。

HEADPHONE VOLUME

ジョグホイールを押すとメイン画面に戻ります。
約2秒間操作しなかった場合は自動的にメイン画面に戻ります。変更した設定は保存されます。

チャンネルチェック

チャンネルチェックは、どの周波数がチューナーの近くで現在使用されているかをチェックすることができる機能です。
メイン画面でジョグホイールを押してMAIN MENUを表示し、FREQ SELに下線がある状態でジョグホイールを押します。
SCANに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、SCANに下線が表示されたらジョグホイールを押します。

スキャンニングには約10秒がかかります。
その後BANKを選択する画面が表示されます。

チャンネルチェックの結果、使用中の周波数があれば、その周波数を含むBANKはチューナーで使用できなくなります。

```
1 2 3 4 5 6
Rotate—Change  Bank
 Press—Select  Bank
```

他の周波数を含むBANKから周波数を選ぶことができます。

パイロットトーン

本装置には、外部干渉を識別するか、非パイロットトーン装置との互換性を許可する方法としてパイロットトーンを無効にする機能があります。工場出荷時の設定はONです。

パイロットトーンをOFFするには、**MAIN MENU**で**RX SET**に下線を表示させてジョグホイールを押し、**RX SETTINGS**画面を表示させます。

PILOTに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、PILOTに下線が表示されたらジョグホイールを押します。ジョグホイールを押してチェックボックスのチェックを外します。ジョグホイールを回してEXITに下線を表示させてジョグホイールを押すと、メイン画面に戻ります。

```
   RX  SETTINGS
MUTE   AUDIO  PILOT
EXIT   PHANTOM  LCD
```

```
PILOT TONE
    Press—Change
    Rotate—Exit
```

```
PILOT TONE
    Press—Change
    Rotate—Exit
```

```
PILOT TONE
     Press—Exit
       EXITE
```

アンテナ供給電源

ブースター内蔵アンテナやアンテナブースターにDC電源を供給します。工場出荷時の設定はOFFです。

MAIN MENUでRX SETに下線を表示させてジョグホイールを押し、**RX SETTINGS**画面を表示させます。

PHANTOMに下線が表示されるまでジョグホイールを回しPHANTOMに下線が表示されたらジョグホイールを押します。

ジョグホイールを押して**PHANTOM PWR**のチェックボックスにチェックを付けます。

ジョグホイールを回して**EXIT**に下線を表示させジョグホイールを押すと、メイン画面に戻ります。

```
   RX  SETTINGS
MUTE   AUDIO  PILOT
EXIT   PHANTOM  LCD
```

```
PHANTOM PWR
     Press—Change
     Rotate—Exit
```

```
PHANTOM PWR
     Press—Exit
       EXIT
```

LCDコントラスト

MAIN MENUでRX SETに下線を表示させてジョグホイールを押し、RX SET-TINGS画面を表示させます。

LCD CONTRAST

LCDに下線が表示されるまでジョグホイールを回しLCDに下線が表示されたらジョグホイールを押します。
ジョグホイールを回してLCD CONTRASTの設定を変更します。
ジョグホイールを回しコントラストを合わせてジョグホイールを押すと、メイン画面に戻ります。
約2秒間操作しなかった場合は自動的にメイン画面に戻ります。どのような変更内容であっても設定は保存されます。

ワイヤレスマイクロホンの設定

スイッチロック

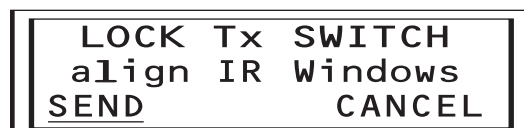
周波数やゲイン値の無断での変更や、突然の電源OFFを防止するための機能です。

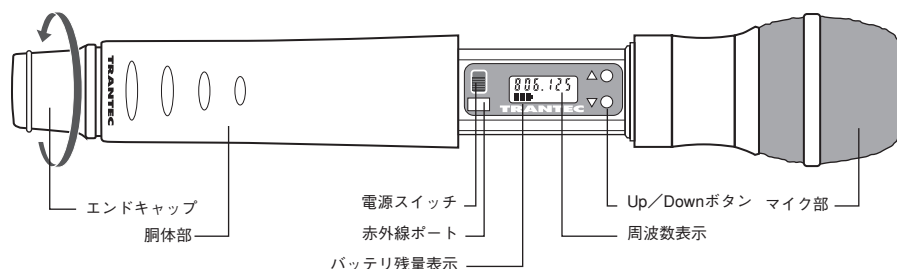
MAIN MENUでTX SETに下線を表示させてジョグホイールを押し、TX SETTINGS画面を表示させます。
LOCKに下線が表示されるまでジョグホイールを回し、LOCKに下線が表示されたらジョグホイールを押します。
ジョグホイールを回してPOWERまたはFREQ/GAINに下線を表示させます。
ジョグホイールを押してPOWERまたはFREQ/GAINのチェックボックスにチェックを付けます。

TX SETTINGS
FREQUENCY LOCK
EXIT

LOCK TX SWITCH
POWER FREQ/GAIN
EXIT

LOCK TX SWITCH
POWER FREQ/GAIN
EXIT

LOCK Tx SWITCH
align IR Windows
SEND CANCEL

ジョグホイールを回してEXITに下線を表示させてジョグホイールを押します。
ワイヤレスマイクロホンに設定した内容を送信する場合は、チューナーとワイヤレスマイクロホンの赤外線ポートを15cm以内に近づけて、ジョグホイールを回してSENDに下線を表示させジョグホイールを押します。
設定した内容を送信しない場合はジョグホイールを回してCANCELに下線を表示させジョグホイールを押します。

ハンド型ワイヤレスマイクロホンのセットアップ

1. マイクロホンを開ける

液晶ディスプレイの確認やと電池交換のときに開けます。
エンドキャップを左へ回し、胴体部をスライドさせます。

2. 乾電池の取り付け

単3形アルカリ乾電池を電池ケースのラベルどおり極性を間違えずに取り付けてください。

3. 電源をONにする

電源スイッチをONの位置にスライドします。
液晶ディスプレイがオンになり、バッテリ残量表示とエンドキャップ部のLEDが点灯します。

4. 受信信号を確認する

液晶ディスプレイにチューナーと同じチャンネルが表示されていることを確認します。
チューナーの液晶ディスプレイには、RFメーターに受信信号レベルを表示し、約20秒後にワイヤレスマイクロホンの電池残量を表示します。

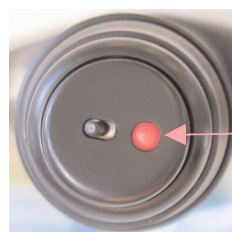
5. ゲインを調節する

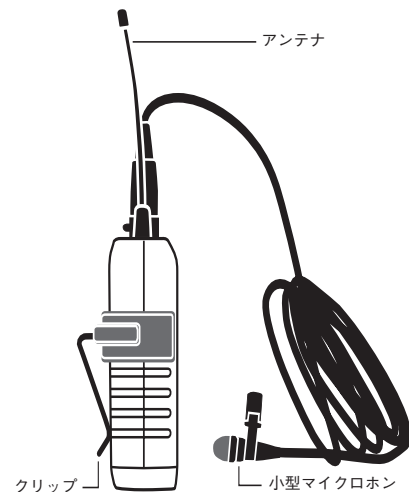
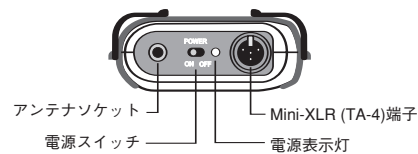
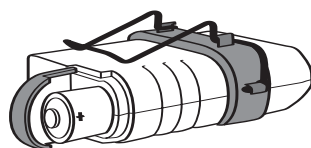
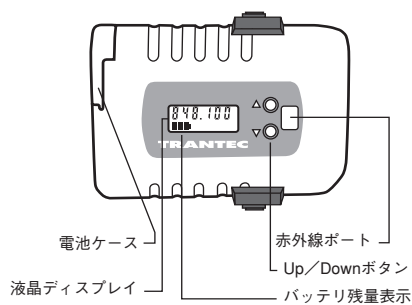
ワイヤレスマイクロホンをONにし、液晶ディスプレイの「小数点」の点滅が終わるのを待ちます。
Up／Downボタンを押して、マイクの感度を調節します。液晶ディスプレイに「0」、「1」、「2」の3段階で表示されます。
「0」のときにマイク感度は最小になります。

6. 周波数を調節する

ワイヤレスマイクロホンをONにし、液晶ディスプレイの「小数点」が点滅している間（約6秒間）にUp／Downボタンを押して、周波数を調節します。
正しい周波数に調節できたら電源をOFFにし、再度電源をONにして設定を有効にしてください。

7. マイクロホンミュートスイッチ

電源表示灯とミュートスイッチはエンドキャップに組み込まれています。
ミュートする場合は、スイッチを電源表示灯側に切り替えてください。

電源表示灯

ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンのセットアップ

1. 乾電池の取り付け

電池ケースのフタを前方へスライドさせ、上方向に開けます。
電池ケースに乾電池を挿入します。乾電池の極性を間違わないように挿入してください。
電池ケースのフタに極性（＋）が記載されています。

2. 小型マイクロホンの取り付け

小型マイクロホンのプラグをMini-XLR (TA-4)端子に接続します。

3. 電源をONにする

電源スイッチをONの位置にスライドします。
液晶ディスプレイがオンになり、バッテリ残量表示が点灯します。
液晶ディスプレイにチューナーと同じチャンネルが表示されていることを確認します。

4. 受信信号を確認する

チューナーの液晶ディスプレイには、RFメーターに受信信号レベルを表示し、約20秒後にワイヤレスマイクロホンの電池残量を表示します。

5. ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンのオーディオゲインを調節する

ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンをONにし、液晶ディスプレイの「小数点」の点滅が終わるのを待ちます。
Up／Downボタンを押して、オーディオゲインを10段階（0〜9）で調節します。最小値は「0」です。

6. 周波数を調節する

ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンをONにし、液晶ディスプレイの「小数点」が点滅している間（約6秒間）にUp／Downボタンを押して、周波数を調節します。
正しい周波数に調節できたら電源をOFFにし、再度電源をONにして設定を有効にしてください。

● 周波数表

［液晶ディスプレイでの表示］

下表のグループ・チャンネルは、チューナー前面の液晶ディスプレイでは、次のように表示されます。

（表示例） B11：「BK1.01」と表示されます。

B23：「BK2.03」と表示されます。

最大同時使用波数						周波数（MHz）
6波						
BANK（グループ）						
1	2	3	4	5	6	
B11						806.125
	B21					806.250
B12						806.375
	B22					806.500
		B31				806.625
			B41			806.750
		B32				806.875
	B23					807.000
B13						807.125
					B61	807.250
		B33				807.375
			B42			807.500
				B51		807.625
B14						807.750
	B24					807.875
			B43			808.000
				B52		808.125
		B34				808.250
				B53		808.375
	B25					808.500
		B35				808.625
				B54		808.750
	B26					808.875
B15						809.000
			B44			809.125
		B36				809.250
			B45			809.375
B16						809.500
				B55		809.625
			B46			809.750

※ 本製品では、グループはBANKに対応しています。

※ お買い上げ時はB11（グループ番号1、チャンネル番号1）に設定されています。

● 800 MHz帯ワイヤレスシステムのチャンネル呼称について

例 B 1 3

ⓐ ⓑ ⓒ

ⓐ - - 800MHz帯を表す

ⓑ - - グループ番号を表す

ⓒ - - グループ内のチャンネル番号を表す

より良くご使用いただくために

ワイヤレスマイクロホンシステム S5.5 Systemをより良くご使用していただくためにに以下をお薦めします。

- チューナーのアンテナとワイヤレスマイクロホンの間は、見通しがよく、障害物（例：コンクリート壁、金属製構造物など）がない環境で使用してください。
- チューナーのアンテナは、常にワイヤレスマイクロホンから3m以上離れていることを確認してください。
- ワイヤレスマイクロホン同士は、常に20cm以上離れていることを確認してください。
- 体や手などの人体にワイヤレスマイクロホンのアンテナが直接触れないようにしてください。アンテナが人体に触れていると通信範囲が縮小します。
- ワイヤレスマイクロホンがOFFのあいだ、干渉を有効に制御するため、ミュートレベルは正しく設定してください。通常の設定値は4～6ですが、多チャンネル使用時には、設定値を通常よりも上げる場合もあります。
- 多チャンネル使用時の個々のBANKは混合しないでください。
- 外部干渉をチェックするときはSCAN機能を使用してください。（詳細はCD-ROMを参照してください。）
- ワイヤレスマイクロホンのオーディオゲインは、チューナーのVUメーターが時々ピークで+6dBを表示し、平均的に0dBを表示するようにします。
- ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンのアンテナは、マイクロホンや本体から離してください。
- 多チャンネル使用の互換性を保証することができないため、他の種類のワイヤレスマイクロホンとの混合使用はしないでください。

トラブルシューティング

- **ワイヤレスマイクロホンの電源スイッチを入れても動作しない**
  ワイヤレスマイクロホンの乾電池の極性、消耗状態を確認してください。

- **チューナーが受信しない**
  ワイヤレスマイクロホンとチューナーのチャンネルが同じになっているか確認してください。

- **通信範囲が狭い**
  ミュートレベルの設定を確認してください。通常の設定値は4～6を推奨します。

- **オーディオ信号が歪む**
  チューナーのマイク／ラインスイッチがご使用のミキサー/アンプと合っているか確認してください。VUメーターの表示が6dB以上ならばワイヤレスマイクロホンのゲイン値を下げてください。

- **周辺騒音が高く、オーディオ信号のレベルが低い**
  VUメーターの表示が6dBをピークとして、平均的に0dBになるようにワイヤレスマイクロホンのゲイン値を調節してください。

- **ブースター内蔵アンテナやアンテナブースターが動作しない**
  配線がショートしていないか、またチューナーのPHANTOM PWRがRX SETTINGのメニューからの設定で、ON（チェックボックスにドットが入っていること）になっているか確認してください。
  ※工場出荷時は、OFFになっています。

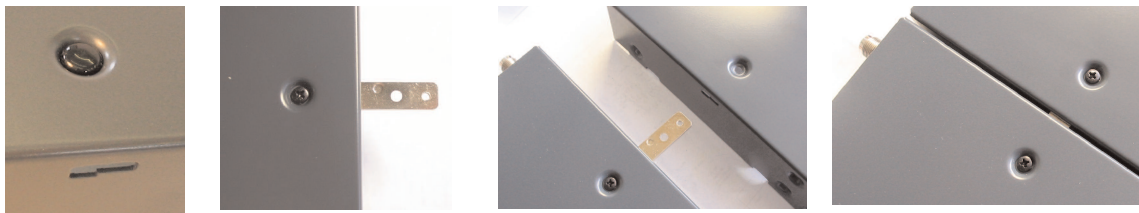
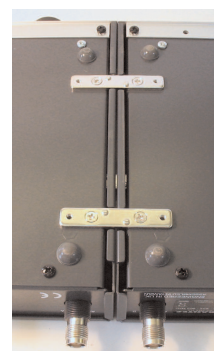
- **チューナーの液晶パネルの表示が暗い**
  チューナーのRX SETTINGメニューでLCDを選択し、ジョグホイールを回してコントラストを調節してください。RX SETTINGメニューは数秒すると自動的に終了します。

S5.5 System用ラックマウントキット

S5.5 Systemチューナー2台の取り付け

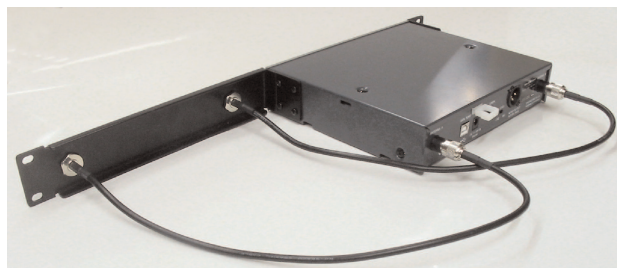
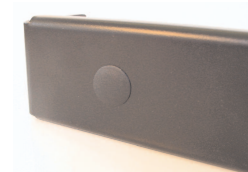
ラックマウントキットはS5.5 Systemの付属品です。

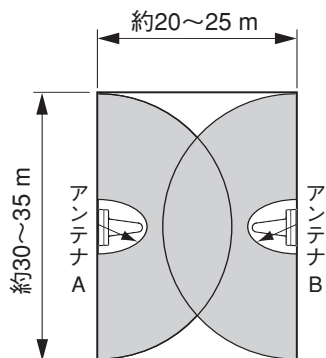
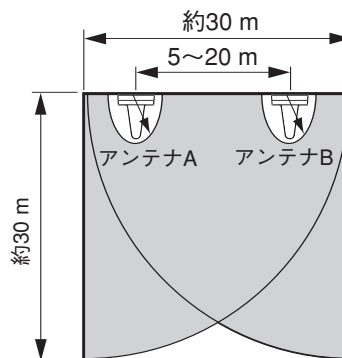
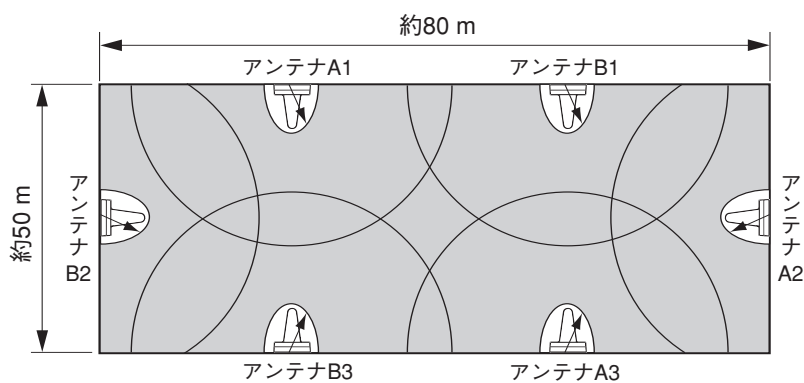
1. 各チューナーのそれぞれ反対の側面からケースをとめているねじ3個を取り外し、付属のねじでアングルブラケットを取り付けます。取付ねじは各チューナーに3個付属しています。

2. チューナーのケース上面からプラスチックプラグ2個を取り外します。
ジョイント金具（チューナーに2個付属）を2台のチューナーの各ケース側面にあるスロットに差し込み、図のようにM3x6ねじ（各チューナーに1個付属、黒）で固定します。

3. チューナーのシャーシ底面にジョイント金具2個をM3x6 皿小ねじ（各チューナーに2個付属）で取り付けます。

ラック前面からのアンテナの取り付け

ラックマウントキットはS5.5 Systemの付属品です。

1. シャーシ左側（正面から見て）のケース止めねじ（M3 x 6）3個を取り外し、アングルブラケットを付属のねじで取り付けます。取付ねじは各チューナーに3個付属しています。

2. シャーシ右側のケース止めねじ（M3 x 6）3個を取り外し、ロングブラケットを付属のねじで取り付けます。

3. 付属のアンテナ拡張ケーブル2本をロングブラケットの前面パネルにBNCナットで固定します。それぞれのプラグをチューナー後面のアンテナソケットにねじ込みます。アンテナを使用しないときは、コネクター用の穴に付属のプラグを取り付けてください。

■ 部屋の広さによるアンテナの設置例

［約700 m²の場合（長方形）］
アンテナを2本使用した例。（向かい合わせ）

［約900 m²の場合（正方形）］
アンテナを2本使用した例。（同一壁面）

［約4,000 m²の場合（長方形）］
アンテナA、B交互に計6本使用した例。（全面）

■ アンテナ設置のポイント

● ポイント1

ワイヤレスマイクロホンを使う位置から見て、2本のアンテナがどちらも20〜30 m以内（屋外のときは、少なくとも40〜50 m以内）に直視できる所に取り付けます。
（どちらかのアンテナがデッドポイントに入ったとき、もう片方のアンテナが良好に受信できる状態を確保するためです。つまり、部屋の形に関係なく、これさえ守ればよいということです。コンパスで2本のアンテナそれぞれを中心に半径20〜30 mの円を描き、どちらの円にも含まれている場所ならば、大丈夫です。）

● ポイント2

部屋の構造や大きさなどによりますが、ダイバシティの効果を得るために2本のアンテナは3 m以上離して設置してください。
5〜20 m離して取り付けると、ダイバシティ効果が大きくなります。できればワイヤレスマイクロホンを持った位置から、前方に1本と後方に1本取り付けるのが効果的です。
例えば、運動場などは、可能なら校舎側に2本、向かい側に2本が理想的です。

● ポイント3

アンテナは、人の背よりできるだけ高い所に取り付けます。ただし、天井や壁などの内側には取り付けないでください。また、何かに当てられて壊されない位置を選んでください。屋外の場合は、雨などに濡れないようにしてください。

● その他の留意点

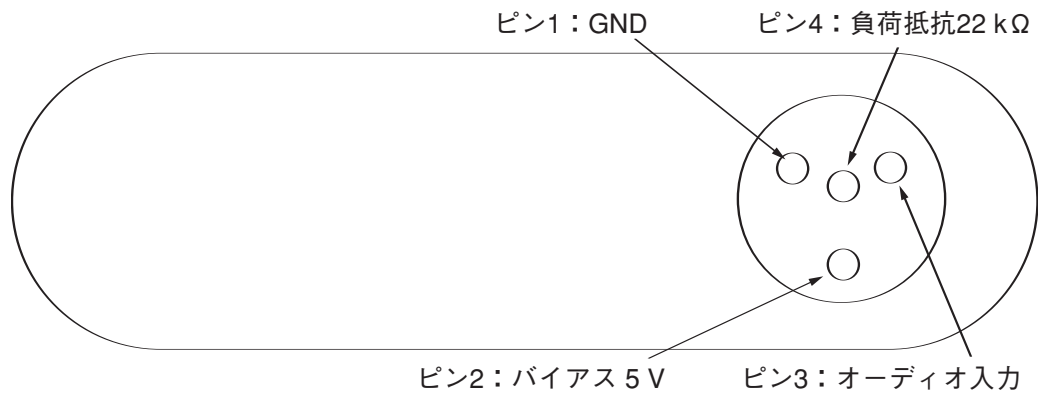
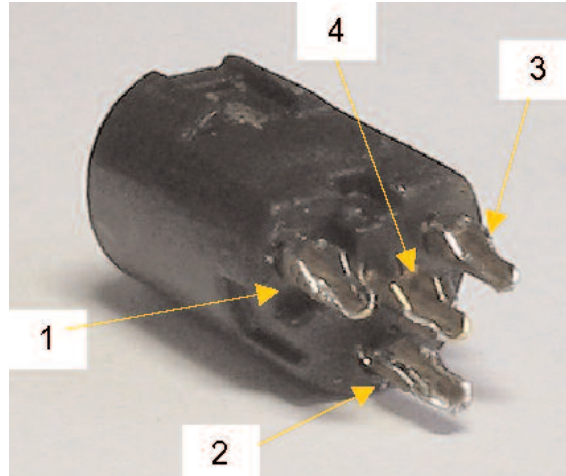
- アンテナ線は、新しい同軸ケーブルを使い、5C-FBでは50 m以内、7C-FBでは70 m以内を目安に配線してください。
- 展示場や宴会場または舞台と客席の間に仕切り板がある場合、あるいはポイント1で述べたカバー範囲にワイヤレスマイクロホンを使う位置が入らない広い場所のときは、アンテナを増設してください。

■ アンテナ設置上のご注意

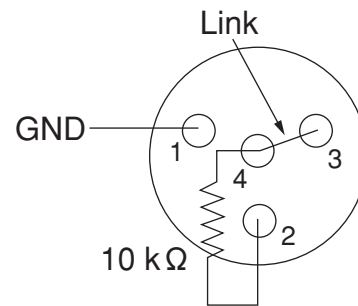
- アンテナから半径30 m以内（屋外の場合60 m以内）がワイヤレスマイクロホンの使用可能な範囲とします。
- ワイヤレスマイクロホンの使用範囲から見通せる位置に、正位置に設置してください。
- ワイヤレスマイクロホンとアンテナを近づけ過ぎると、誤動作や雑音を発生する恐れがあります。ワイヤレスマイクロホンと受信アンテナの距離は、2 m*以上離してください。
  ＊ ワイヤレスマイクロホンの送受信出力の設定やアンテナの設置場所などの条件により異なります。
- アンテナとアンテナの間隔は5～20 m離してください。
- 鉄骨やロッカーなどの金属物の近くを避け、壁面から30 cm以上離して設置してください。
- 必ず2本以上、偶数本で使用してください。また、2本以上接続する場合はA系統とB系統の交互に設置してください。
- 室内であれば、外部からの電波を受けやすい窓の近くよりも、電波を通しにくい壁側に設置してください。
- 雑音電波を発生する恐れのある機器の近くに、アンテナやケーブルを近づけないでください。
  例： インバーター応用機器（蛍光灯、エアコンなど）、デジタル機器、パソコンなどのコンピューター機器
- ブースター付きアンテナ単体でのアンテナケーブル長の限界は7C-FB（低損失型）で70 m、5C-FB（低損失型）で50 mです。
- アンテナケーブルが長くなる場合は、アンテナブースターYW-1000（別売品）を使用してください。
  本機のAまたはBのアンテナ入力コネクターには、アンテナブースターYW-1000（別売品）をそれぞれ3台まで接続できます。（ただし、A入力またはB入力の各コネクターに直列接続できるのは2台までです。）
  アンテナケーブルの中間付近にアンテナブースターを配置すれば、約3倍の距離（7C-FBで200 m、5C-FBで150 m）まで伸ばすことができます。
- アンテナや受信機のアンテナコネクターを短絡させないでください。電源がショートして、故障の原因となります。
- アンテナとワイヤレスチューナーは、接続する同軸ケーブルが短くなるような位置に設置してください。
- 3本以上のアンテナをご使用の場合は、混合分配器WD-1810（別売品）を使用してください。

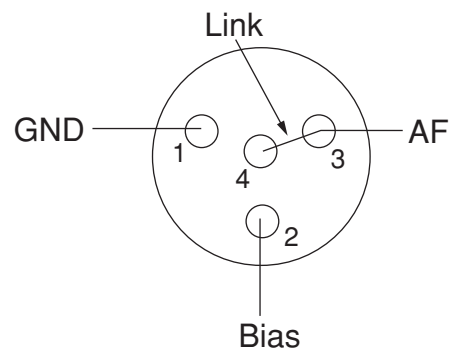
Mini-XLR (TA-4) 配線接続

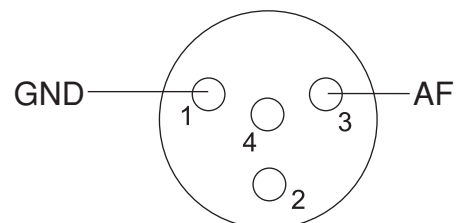
ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンのMini-XLR (TA-4)の配線

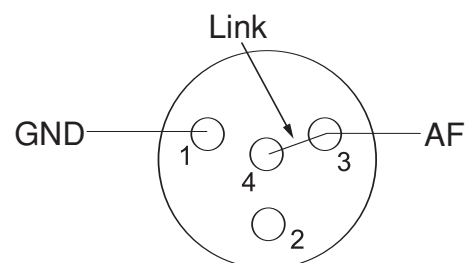
1. GND
2. バイアス 5 V
3. オーディオ入力（ハイインピーダンス）
4. オーディオ入力（負荷抵抗付き）

Mini-XLR (TA-4)ソケットのはんだ接続

Mini-XLR (TA-4)ソケットの配線

2線式マイク

ピン1：GND
ピン2：5V
ピン3：オーディオ入力
ピン4：オーディオ入力
図のように、3番ピンと4番ピンを接続し、
10 kΩのバイアス抵抗を追加します。

3線式マイク

ピン1：GND
ピン2：5V
ピン3：オーディオ入力
ピン4：内部オーディオ負荷抵抗
図のように、3番ピンと4番ピンを接続します。

ハイインピダンスギター/楽器

ピン1：GND
ピン2：5V（接続しない）
ピン3：ハイインピーダンスオーディオ入力
ピン4：接続しない
図のように、ケーブルのGNDを1番ピン、
オーディオ信号を3番ピンに接続します。

ローインピダンスマイクロホン（バイアスなし）

ピン1：GND
ピン2：2.5V（接続しない）
ピン3：ハイインピーダンスオーディオ入力
ピン4：内部オーディオ負荷抵抗
図のように、3番ピンと4番ピンを接続し、
ケーブルのGNDを1番ピン、オーディオ信号
を3番ピンと4番ピンに接続します。

仕　様

システム概要

無線周波数帯：	806.125～809.750 MHz（30波の内 1 波）
チャンネル間隔：	125 kHz
帯域幅：	110 kHz以下
周波数特性：	60 Hz～15 kHz
オーディオ歪み率：	0.8%以下　周波数偏移 22 kHz時
オーディオダイナミックレンジ：	110 dBA以上
オーディオノイズリダクション：	Trantecオリジナル
使用温度範囲：	-10℃～+50℃

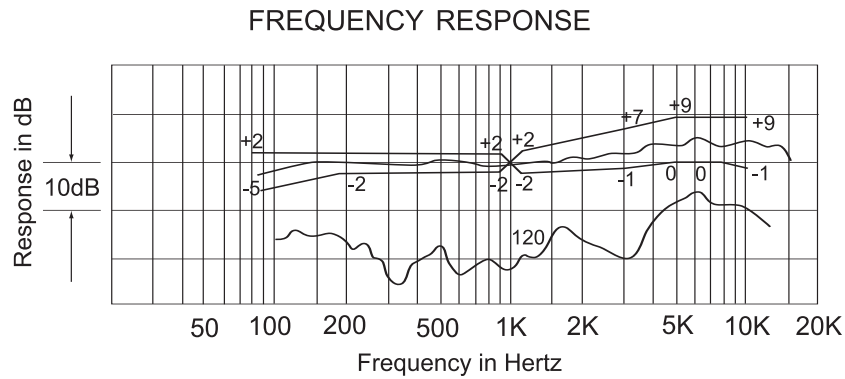
チューナー仕様

方式：	PLLシンセサイザー方式 ダブルスーパーヘテロダイン型トゥルーダイバシティチューナー
中間周波数：	第 1 中間周波数：55.875 MHz、第 2 中間周波数：10.7 MHz
感度レベル：	1 μV以下（12 dB SINAD）
ファーストイメージ：	70 dB以上
スケルチ可変幅：	30 dB（10段階）
アンテナ入力：	BNC 50Ω
オーディオ機能：	ローカット ー ハイブースト ー 極性反転
オーディオ出力レベル：	XLRラインレベル：最大+14 dBV、 XLRマイクレベル：最大-22 dBV 標準フォーンジャック：最大8 dBV、不平衡型
アンテナ供給電源：	DC 9 V、最大65 mA
赤外線通信：	範囲最大15 cm
コンピュータ接続：	背面のシリアルUSBポートによりコンピュータと接続
消費電力：	約300 mA（13 V DC）
寸法：	210 mm × 46 mm × 210 mm
質量：	1.3 kg

ワイヤレスマイクロホン仕様

電源：	単3形アルカリ乾電池（1個）
消費電力：	約120 mA
電池持続時間：	約8～10時間
機能：	オーディオゲイン調整 オーディオミュート（ハンド型ワイヤレスマイクロホンのみ）
オーディオゲイン可変幅：	ハンド型ワイヤレスマイクロホン：12 dB（3段階） ベルトパック型ワイヤレスマイクロホン：20 dB（10段階）
寸法：	ハンド型ワイヤレスマイクロホン：32 mm × 250 mm、ウィンドスクリーン直径 51 mm ベルトパック型ワイヤレスマイクロホン：55 mm × 80 mm × 20 mm
質量：	ハンド型ワイヤレスマイクロホン：380 g（電池含む） ベルトパック型ワイヤレスマイクロホン：140 g（電池含む）

ハンド型ワイヤレスマイクロホンの仕様（マイクヘッド部）

エレメント：	ムービングコイル（ダイナミック型）
指向特性：	ハイパーカージオイド
周波数特性：	100～10000 Hz
感度：	-51dB±3 dB
インピーダンス：	600 Ω±30%（1 kHz時）

DIRECTION
1kHz 0° -120° (±20°) GREATER THEN 12dB
HIGH-FREQUENCY
±2dB PEAK & DIP ARE ALLOWABLE WITHIN 1/3 OCT.
8.W. AT 2kHz OR MORE.

ベルトパック型ワイヤレスマイクロホンの仕様（マイクヘッド部）

指向特性：	無指向性
周波数：	50 Hz～18 kHz
エレメント：	バックエレクトレットコンデンサ
感度：	-54dB±3 dB
インピダンス：	4 kΩ±30%（1 kHz時）
寸法：	10.5×24.7mm
ケーブル：	1.3M×2.2mm
コネクタ：	Mini-XLR (TA-4)
質量：	20.5 g（アクセサリーを除く）

FREQUENCY RESPONSE CURVE: